

# お 泉 水

№.16 1985. 10. 15 福井県図書館協会報

福井市城東1-18-21・県立図書館内 県図書館協会

## 図書館界 ニュース

●本年度の政府予算案は、公立図書館等「社会教育施設費補助金」は、軒並み前年度比15%削減となり、公立図書館分については、15億2,250万円となった。

また今回から、各社会教育施設補助金のグルーピング化が行われ、①公立社会教育総合、文化施設、②公立社会教育専門施設、③公立青少年教育施設の3区分で割り当てが行われている。公立図書館は、公立博物館、同視聴覚センター、同婦人教育会館と共に第②グループに属している。

●6月24日 本年度の国立国会図書館長と都道府県立並びに指定都市立図書館長との懇談会が開催された。

懇談会では、①新館完成後の利用態勢②国立国会図書館和書データベースのオンライン実験についての報告をもとに話しあいが持たれた。

①については明年6月、地上4階、地下8階（第1次では4階まで）の新館が完成し、秋に開館予定である。新館と本館は一体となって運営されるが、新館は逐次刊行物を中心とする。またこれに伴い対図書館サービスの窓口一本化を検討中で、各図書館の整備、通信技術の発達に伴う国立国会図書館のサービスのあり方を検討しているが、図書館の協力を担当する部門の中に、国内協力課を置き、そこに対図書館サービス係（仮称）を設置することが明らかにされた。

この係では、対図書館サービス、つまりレファレンス、貸出し及び複写の要求が一元的に処理されることになる。これらの業務は簡素化、効率化をはかるためにファクシミリを導入して進められる。これに関連して国立国会図書館から①都道府県立図書館にファクシミリを設置してほしいこと②貸出しは保存機能を両立させるため、地域の図書館で間にあわないものに限り、それもできるだけ複写で代替してほしいこと③貸出し等の相手先は、将来はこれまでの単館契約方式をやめ、都道府県または指定都市立の図書館を窓口としたいことなどの要望が出された。これは①国立国会図書館の蔵書目録は県立図書館にしかない②地域の図書館での所蔵が確認できる③市町村図書館との契約がふえ続けるとサービス業務に支障をきたす恐れがあること等の理由による。

これに対し出席者の都道府県立図書館側からは、すでに実施したアンケート調査でもこの考え方に大部分が反対していること、特に事務が煩瑣になり、しかも苦情は

窓口の県立図書館に来る、また時間がかかる。ファックスを県に置いて市町村レベルになれば無理等の意見が出された。

この問題については、今後全国公共図書館協議会でも検討し、国立国会図書館でもさらに十分な検討をしていくことになった。

●国立国会図書館では「国立国会図書館和書データベースオンライン利用実験」として昭和60年度に公衆漢字端末機を希望している13館（福井県立図書館外）の関西地区でのオンライン情報検索を中心とした研修会（7月18・19日）が開催され、端末機の貸出が開始された。

福井県立図書館では、9月21日から10月21日までの1ヵ月間貸出しを受けた。

●日本図書館公共図書館部会の昭和61年度研究集会等の開催地がきまった。

整理部門	岐阜県
奉仕部門	熊本県
参考事務分科会	京都府
児童事務分科会	神奈川県
東海北陸地区研究集会	三重県
東海北陸地区J L A 地方講習会	石川県
全国図書館大会	東京都

●全国公共図書館協議会で、昭和53年度から進められてきた図書館全国計画（ナショナルプラン）策定事業も、この3月に「公共図書館のサービス指標及び整備基準試案」が報告され策定事業が終了した。

昭和60年度はあらたに「公共図書館における相互貸借制度について」をテーマに調査・研究することになり全国を7地区に分け、地区委員会を設けて検討するとともに、各地区代表による全国調整委員会（仮称）を設け、検討結果を報告書にまとめることになった。

●日本図書館協会では個人会員の会費を昭和61年度より現行5,000円から6,000円に値上げされる。

●I F L A 大会組織委員会では、大会準備と併行して、募金委員会を組織し資金面での準備を進めており、委員会では各界の支援を得るためにも、図書館界独自の全面的な自助努力が必要と考え、図書館に直接関係している個人と施設からの募金協力を期待しているので、当県協会会員のご協力をお願いしたい。

# 高浜町中央図書館完成

高浜の全町民が1日千秋の思いで待ち望んだ高浜町中央図書館は、11月に竣工、開館の予定である。その概要は次のとおりである。

建築面積 663.93㎡ 用地面積 10,586.61㎡  
総工費 16,200万円

すでに、建築工事は完了し、高浜町立石33-1に純白で清楚な容姿を現わしている。同敷地内に文化会館も同時に建設され、高浜の教育文化の中心としての働きが期待されている。

中央図書館及び文化会館の建設にあたって、基本構想として、次の5項目が配慮されている。

- (1) 「豊かな人間環境の創造」を目指した環境づくりのモデルケースとする。
- (2) 風土、周辺環境に調和し、高浜町のシンボルとして町民に親しまれる造形にする。
- (3) 文化会館との各特徴を重視し、有機的に結びつき効率を高める。
- (4) 公共施設として町民が幅広く利用でき、安全性の高い建物にする。
- (5) 維持管理しやすい計画とし、ランニングコストとイニシャルコストのバランスのとれた経済設計とする。

さらに、中央図書館は、町民に利用されやすい位置に配置され、東側広場には、図書館のもつ活気、にぎやかさ、楽しさが伝わるように、南側からは陽ざしを受けゆったりとした落ち着きが得られるように考慮されている。

また、蔵書数を次のように設定して、内部の空間も計画されている。

一般開架部門 15,000冊  
児童開架部門 7,000冊  
レファレンス部門 3,600冊

以上が中央図書館の概要であるが、高浜町は福井県の最西端に位置し、地理的に福井県の辺地であり、教育・文化の面でも遅れをとっていた観がある。しかし、ここ十年間の歩みはめざましく、工場誘致、原子力発電所建設等により経済力がつくと共に、第一次産業の振興、観

光開発等はもちろん、教育・文化の向上をめざし、町内小中学校の鉄筋化、プールの建設、そして、文化施設の建設を進めてきた。

本年、町制30周年を迎え、施設、設備の充実を完了し、内容面での充実を推進し、名実共に活力あふれる住みよい町づくりに向って始動しはじめたといえる。

その中で、中央図書館の果す役割りは極めて大きく、住民の期待に応えるべく責任も大きいといえる。そこで、図書館経営の2本柱として次のことを中心課題とする。

- 生涯教育の学習の場と教材を提供する。
- 青少年の健全育成と人間性豊かな人格の育成に資する。

高齢化社会を迎え、生涯教育が叫ばれる中で図書館の果す役割りは非常に大きいといえる。その社会の要求に応えるため施設、設備はもちろん、蔵書の内容面でも配慮し購入計画を立てている。

また、次代を担う青少年の健全育成は生涯教育と共に重要な課題である。そして、青少年の健全育成は地域の責務であるともいえる。そのために、青少年コーナーの充実にも努め、蔵書は、約40%強の購入を予定している。

その他、婦人教育、壮年教育のために資するように努めたい。その中で、読書グループの育成を主眼とし

て行きたい。

当町は、活力ある住みよい町づくりの中心課題として同和教育の推進に取り組んでいる。部落の完全解放、真の民主主義社会の実現は当町の住民1人ひとりの課題でもある。また、行政として住民を啓発し意識変革を進める責務がある。その意味で同和教育コーナーを設置し、同和教育推進の一助としたい。さらに、郷土資料コーナーを設置し、資料の提供に努めたいと考えている。

以上が開館を目前にしての経営構想であるが、図書館は、時代と共に生き、住民のニーズに応えつつその歴史を彫んで行くものである。この高浜町中央図書館が住民の図書館として生まれ、効率の高い働きをするか否かは、関係者の努力にかかっているといえる。

## 図書館資料の収集についての独言

福井大学附属図書館 西野 正敏

私は現在大学図書館で、雑誌の受入業務を扱っている。資料の収集・整理・運用という3つの図書館の基本的な機能を考えるならば、いわば、図書館システムの入口にあたる部分の仕事をしているわけである。そこで、常日頃思うことは、図書館資料の日々の収集・蓄積はその図書館の将来を決定してしまうことである。もはや一館での資料の収集・蓄積は困難であり、何を収集するのかが大きな問題となってくる。このことは、後に発生するであろう相互貸借、文献複写サービス等の運用面にまで影響を与える。だから、一つの図書館としての独自性、個性性を発揮しながらも、有意味的な収集をしなければならないのではないか。そうすれば、現在図書館が持つ悪い意味での閉じたシステムから外に開かれたシステムとして、今後大いに期待され、かつ広く利用されるものになるであろうと、楽観的なことを考えるのだが……。

## 開館にあたって

大野市図書館 成田 和美

待望の図書館がオープンして4ヵ月。連日多くの人が利用して下さいます。ただ、今まで図書館らしい活動がなかった大野市に突然できた図書館だけに、図書館を知らない人が多く、職員も利用者も1年生で、とまどうことの多い毎日です。

利用者の中で最初に図書館に慣れたのは、やはり子供で、今では我が物顔で走りまわっています。でも、場所的なこともあるせいか、学校から、図書館へは一度帰ってから行くように、と言われているようです。ランドセルをガタガタさせて駆け込んでくる姿が見られないのが少々淋しい気がします。又、カウンターで子供と接していて、気になるのは、子供と会話が成立しないことです。少しでも話をすれば、もっと気軽に来てもらえるんじゃないかと思うのに、むこうはただ黙ってモジモジしたりうなずくだけ。カウンターでの無言の応対というのは何か気づまりで変な感じです。少々騒がしくても、子供とも大人とも、いろんな話ができるような図書館になるよう頑張りたいと思っています。

## 雑感

清水町立図書館 松原 和子

「清水町に図書館なんかつくったって、誰か行くもんあるんけの……」。開館前は、そんな声やしきりでした。

ところが開館してみると、1時間もかかって歩いてきたという小学生や、何日かおきに必ず顔を見せてくれるおじいちゃんと、少しづつ嬉しいおなじみさんが増えてきました。

開館から5ヵ月、手さぐりでやってきた行事の一つひとつにも、こちらがびっくりさせられる程、確かな手応えがかえってきました。また、反面、細かいことでお叱りを受けるようなこともたびたびありました。「少しは前進してるかな？」と時々不安になりますが、

「さわやかな図書館ですね」  
 「こんな図書館ができるのをずっと待っていたんですよ」  
 というあたたかい声に励まされながら、今日もうず高く積まれた本と格闘しています。

## 良い経験を積むためには

県立図書館 廣場 誠

最近、76年ぶりの回帰ということで、新聞・雑誌などに「ハレー彗星」の文字が目につく。書店でも何冊もの関係図書が並び、特別コーナーを設けたところさえある。また、双眼鏡や望遠鏡も最近になく売れに売れているそうである。これはこれで大変けっこうなことだとは思ふ。しかし、残念なことも多少ある。ただ単にブームに乗って発行されたようなあまり内容のない図書や雑誌、また、例えば望遠鏡にはそのレンズや反射鏡（これらの良否も問題であるが）の直径によって最高倍率はほぼ決定しているにもかかわらず、能力以上の高倍率を売りものにして誇大広告などである。これらはもちろん極めて少数ではあるが。しかし、これらを手にした人たちは、特に子供たちはその期待を裏切られて、かえって星の世界から遠ざかってしまうかも知れない。最近では望遠鏡では望み得ないすばらしい写真がテレビ・雑誌などを通して茶の間でも見られるためなおさらその不安がつきまとう。全てに当てはまることだろうが、良い経験を積むためには「良いもの」を選択しなければならないと思う。

## 県内図書館界の動き

### ◆福井県図書館協会

本会の今年度の行事は次のとおりである。

- 6月11日 理事会兼総会
- 7月 読書感想文県下コンクール作品募集(～9月)
- 10月15日 「お泉水」No.16発行
- 10月18日 第6回郷土資料分類表改訂委員会
- 11月10日 本を読む人たちの集い(読書感想文県下コンクール入選者表彰式ならびに優良読書グループ表彰状伝達式・講演会「若狭の風土に生きる」講師 画家 渡辺淳氏)
- 11月20日 福井県図書館関係職員研修会(兼市町村立図書館職員実務講座)
- 3月 「福井県郷土資料分類表(昭和60年改訂)」発行〔予定〕

### ◆福井県郷土資料分類表(昭和60年改訂)発行決まる

「福井県郷土資料分類表」は昭和52年に改訂発行されて以来、県内各図書館の郷土資料分類の標準化に大いに重宝されてきたが、近年ますます多様化する内容や「日本十進分類表」の7版より新訂8版への移行などにより、充分に応え切れない面も出て来た。このため、昭和58年度より10名の委員を委嘱して「福井県郷土資料分類表改訂委員会」を設け、加藤良夫武生市立図書館長を委員長に延べ5回に渡って改訂作業を進めて一応の結論を出し、去る6月11日の総会で発行が決定された。

なお、刊行は昭和61年3月を予定している。

### ◆「中野重治文庫目録Ⅰ」発行される

中野重治文庫記念丸岡町民図書館はこのほど2年がかりで「中野重治文庫目録Ⅰ」を発行した。この目録はB5判・88Pで、寄贈を受けた蔵書のうち、中野重治関係図書(詩集・小説集・随筆・評論集・中野重治論・研究抄・中野鈴子関係資料など)および定期刊行物約10,000点を載せている。また、故人の書き込み・折り込みの有無まで明記されているのが大きな特色である。なお、同文庫にはこの他に、洋書・新書文庫本など約3,000点があり、これらについても、索引とともに「第二次目録」として発行が予定されている。貴重な目録だけに、発行が待たれている。

### ◆図書館年鑑東北陸地区編集連絡会議開催される

8月23日・24日の両日、福井県立図書館にて、「図書館年鑑東北陸地区編集連絡会議」が開催された。

今回の会議では、内容についての変更はないが、ただ、3回に分けて依頼していた原稿は、今回より2回となった。ご協力をよろしく願いたい。また、日本図書館協会より図書館年鑑を購入してほしいとの要望があった。

### 福井地区大学図書館協議会

本協議会は発足以来11年目を迎えた。大学図書館とはいえ、設立母体、規模が異なり、共通のテーマを掲げることはむずかしい。このような中で、今年度は次のような活動を行っている。

60年度総会を、6月4日(火)福井高专で催した。59年度事業及び決算報告、60年度事業計画及び予算案を承認、そのほか各種意見の交換を行った。

8月27日(火)には、事業計画のひとつとして、夏季研修会を越前和紙の里会館研修センターにおいて開催した。和紙研究家三三四長次氏の講演の後、参加者36名が色紙版2枚に、それぞれのアイディアを満載した紙漉きの実習を行った。この実習は、参考業務に役立つ学習を体験できたことでもあり、有意義な研修会であったと云えよう。

この後、総会をもう一回開催の予定である。

### 福井県学校図書館協議会

#### ○昭和60年度 県学校図書館研究大会開催

6月25日 大野市で乾側小学校、開成中学校、市民会館の3会場で、福井県教委・大野市教委との共催で開催された。乾側小・開成中で公開授業の後、上記3会場で小学校3分科会(藤森千里子他5名)・中学校分科会(坂下幸枝他1名)・高校分科会(森島昌雄他1名)・高校司書分科会(藤沢泰子)の提案を中心に「自ら学ぶ力を育てる学校図書館」をいかにしてつくりあげるかを主題に論議が展開された。全体会議は日本児童出版協会会長今村廣氏「児童図書出版のこゝろざし」で参加者230名であった。

#### ○第29回近畿学校図書館研究大会

8月22～23日 大阪市・吹田市で開催、本県から50名参加、7名が提案をおこなった。

#### ○県下高等学校図書館 郷土資料総合目録脱稿

5年来高教県学図部会司書研究会員が編集作業をすすめてきたが9月末日脱稿・明年2月刊行予定。

### ✿ 事務局通信 ✿

今夏は連続53日間真夏日という新記録を樹立する猛暑でした。そのせいか、夏休み期間中は各図書館とも大変な混雑を見せたようですがいかがでしたか。

今年度もはや半分が過ぎました。読書の秋をむかえてさらに頑張りたいと思います。